

第4回 氷見市総合計画審議会 会議録	
日 時	令和3年9月29日(水) 13時15分から15時15分まで
場 所	氷見市ふれあいスポーツセンター 会議室
出席者	委 員 伊藤宣良、大嶋充、尾畑納子、角谷禎成、金嶋修、河上昌俊、河原朱里、川田文人、菊川昌彦、草島すなお、越坂裕子、佐伯三美子、坂下明生、高木陽子、高嶋達(代理:七分)、辻井満雄、釣谷聡、寺下利宏(代理:京田)、中村和之、西川扇博、西森正憲、野畑圭造、林美樹、松原勝久、吉崎一美(出席25名)(欠席5名:中村剛、西山知克、松井みづほ、松波久善、森本太郎)
	市関係職員等 林市長 策定委員会委員(篠田副市長、鎌仲教育長、藤澤政策統括監、東軒企画政策部長、森田総務部長、新井市民部長、森川産業振興部長、釣賀建設部長、石田防災・危機管理監、高田会計管理者、泉澤教育次長) 事務局(高野地方創生推進課長、尾山同課長補佐、塩津同課主査、大石同課主任、檜垣同課主事、屋敷同課主事)
次 第	1 開 会 2 会長あいさつ 3 市長あいさつ 4 議事 (1) 第9次氷見市総合計画体系図(案)について (2) 第9次氷見市総合計画基本計画(素案)について (3) 第9次氷見市総合計画策定の今後のスケジュール(案)について 5 閉 会
資 料	【説明資料】 資料1 第9次氷見市総合計画体系図(案) 資料2 第9次氷見市総合計画基本計画(素案) 資料3 第9次氷見市総合計画策定の今後のスケジュール(案)について 【参考資料】 参考資料1 氷見市総合計画審議会委員名簿 参考資料2 氷見市総合計画審議会部会名簿 参考資料3 氷見市総合計画審議会条例 参考資料4 氷見市総合計画審議会部会設置要綱 参考資料5 氷見市総合計画策定委員会委員名簿 別冊 第9次氷見市総合計画基本構想

1 開 会

(司会)

本日は、お忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。

ただいまから、第4回氷見市総合計画審議会を開催する。本日の進行をつとめさせていただきます。

2 会長あいさつ

(司会)

初めに、会長からご挨拶申し上げます。

(会長)

本日は第9次氷見市総合計画の基本構想に基づき、令和4年度から令和8年度までの前期基本計画について審議を進めていくことにしているので、忌憚のないご意見をいただきたいのでよろしくお願い申し上げます。

3 市長あいさつ

(司会)

次に、市長からご挨拶申し上げます。

(市長)

ご多用の中、氷見市総合計画審議会にご出席いただき、感謝申し上げます。

また、日頃から、市政の発展に格段のご支援、ご協力を賜り心から感謝申し上げます。

この第9次氷見市総合計画につきましては、5月25日に目指す都市を「人 自然 食文化で未来を拓く交流都市 ひみ」とした基本構想の答申をいただき、審議会の6月定例会におきまして議決をしていただいたところである。

また、基本目標である、住みたいまち、働きたいまち、育てたいまちなどに沿った基本的な施策や取り組みを示す基本計画の策定に活用するため、市民の皆様に市の施策やまちづくりのご意見をお伺いするアンケート調査を今月1日から24日まで実施し、現在、取りまとめを行っている。

今後新型コロナウイルス感染症の状況にもよるが、まちづくりふれあいトークや分野別懇談会などの開催をしながら、基本計画の策定作業を進めるスケジュールを考えている。

本日は、6月に決定した基本構想に基づき令和4年度から8年度までの前期基本計画に関する体系および基本計画について、ご審議いただき、委員の皆様方には、忌憚のない建設的なご意見などを賜ることをお願い申し上げ、私のあいさつとする。

(事務局)

ここで、会議資料の確認をさせていただきます。

本日の会議資料は事前送付した右上の資料番号1から3まで、参考資料として1から5、それと本日お手元に配布した基本構想が資料となる。

なお、誠に申し訳ないが、お手元に座席表のほかに、本日の参考資料1、2を配付させていただいた。こちらは事前送付後に修正したものであるので、本日はこちらをご覧くださいよう願います。資料の配布もれはなかったか。

5月の審議会後に委員の交代等がありましたので、ご報告させていただく。

今回新たに委員をお願いしました富山国際大学子ども育成学部教授の辻井様、氷見市金融協会長の交代により金嶋様、氷見市小中学校PTA連合会長の交代により西森様、富山県森林組合理事の交代により常務理事の林様に出席いただいている。

また、氷見市医師会長の交代によりご出席を依頼しておりました松井様につきましては、本日所用により欠席の連絡をいただいている。

本来であれば、市長から委嘱書をお渡しすべきところではあるが、時間も限られているので、お手元に配布させていただいている委嘱書をもって委嘱に代えさせていただくこと、ご了解願う。

本日の審議会への出席について、高嶋委員の代理で七分様、寺下委員の代理で京田様にご出席いただいている。なお、中村委員、西山委員、松波委員、森本委員については所用により欠席の連絡をいただいている。

ご出席いただきました皆様方をご紹介すべきところではあるが、お手元の座席表、審議会委員名簿をもって紹介に代えさせていただくこと、ご了承願う。

それでは、ここから先は、氷見市総合計画審議会条例第5条第1項の規定に基づき、会長に議事の進行をお願いする。中村会長よろしく願います。

4 議事

(1) 第9次氷見市総合計画体系図(案)について

(2) 第9次氷見市総合計画基本計画(素案)について

(会長)

まず、本審議会の委員は30名で、本日の出席委員は25名で、氷見市総合計画審議会条例第5条第2項に規定する会議開催の定足数16名を満たしていることを報告する。

それでは、議題1「第9次氷見市総合計画体系図(案)」、議題2「第9次氷見市総合計画基本計画(素案)」についてであるが、事務局から一括して説明願う。

(事務局)

(「資料1 第9次氷見市総合計画体系図(案)」「資料2 第9次氷見市総合計画基本計画(素案)」を説明)

(会長)

事務局より基本計画の素案の説明をいただき、沢山の項目があるということをご理解いただけたかと思う。

基本計画の素案であるが、各章は前回審議いただいた基本目標に相当し、節は前回の審議会での基本構想にあります政策に当たる。項はその政策をもう少し具体化した施策になる。こちらは新たに事務局で出されたことになる。主要な施策を記述するにあたり、現状と課題ということあげているが、本日、特にご意見いただきたいところは、今回のこの現状と課題で見落とされている内容や付け加えた方がよいというものなどについて、ご意見ご質問等いただければと思う。

また、主要施策の項目が出ている中で、これ以外に市として総合計画として取り組むべきことはないのか、あるいは特にここを強調したほうがいいのか等に繋がるご意見をいただけたらと思う。

皆様がそれぞれの立場で感じられているところを具体例とともに声をあげてお話しいただければ、それに関する対応する施策等々の体系を考えていただくことも可能なのかなと思う。

政策、施策、小施策このあたりでのご意見をいただければと思う。

(委員)

事務局に一つ質問したいのですが、地域をいかに活性化させていくかということは、まちづくりの推進の中で一番の課題だと思う。そこで地域まちづくり協議会の役割は非常に大事。市でも地域まちづくり協議会を推進しておられるが、現在どれくらいできているのか。

(事務局)

現在、8地区で協議会が立ち上がっている。

(委員)

全地域ではできてないので、積極的に進めていただきたい。

それぞれ地域に各種団体があるが、みんなが協力して、素晴らしい地域にしようじゃないかという気持ちで取り組んでもらいたい。

私のいる地区は氷見で一番大きな地区だがまだできていないので、是非積極的に推進していただきたい。

(会長)

まさに市民によるまちづくりの促進ということになる。

(事務局)

地域づくり協議会ですが、残り8地区が設立されていない状況で、地域振興課のほうで、各地区に出向き、メリット、デメリットを説明して回っている。

毎月の説明会、膝をつき合わせた話し合いをしているので、もうしばらくお待ちください。

(会長)

とても大事な取り組みだと思う。全体のスピード感は違うと思うが、好事例をどんどん積み上げていくと、そのあともスムーズにいくのではないかと思う。そして、基本計画に反映させていただくということを考えていただければと思う。

(委員)

35ページの施策「循環型社会の形成」の中に3Rとあるが、これからの時代は4R、5R、6Rというかたちでいらないものを買わないといったリフューズなど新しいものが増えてくると思う。

また、課題の多くに、少子高齢化や人材不足・人材育成などがキーワードになってくると思った。

(会長)

カーボンニュートラル、ゼロカーボンなどにもあるように、次々に新しいものへ変化していく時代なので、まずは言葉遣いをチェックしていただくことが大切である。

そして、基本計画にマッチした言葉は何かということ、市民が読んで理解できる言葉遣いにしなければならないと思う。

(委員)

9ページの第1節の二つ目について、各地域からの交通安全施設の整備が求められているとあるが、信号機や道路幅を広げるといったお話か。

(事務局)

こちらは、交通安全施設の整備ということで、標識の設置もあるかと思うし、道路の幅を広げるといった整備ということも入って来るかと思う。

(委員)

警察署的には管内にインターチェンジが4つあるというのは氷見警察署管内だけで、全て無料通行区間ということで、いろんな方が乗り降りできるため、交通量が多いと思う。その周辺の住民の方々も事故にあわないように注意されていると思うが、こちらもそういった意見・要望があれば対応していくので、願います。

(会長)

交通環境の変化ということで、警察署の方々ともいろいろと意見交換をしていかなければならないと思うし、それを踏まえてどういう対策をしなければならないのかということも、情報共有しながら取り組んでいければと思う。それらの意見を反映できるのであれば、反映していただければと思う。

(委員)

どうしても総合計画というのは総花的にならざるを得ない部分がある中で、脱炭素化社会の推進ということを謳われていることは、非常に高い評価をするべきところだと思う。

環境を大事にしながらもう一方で少し気になったのが、デジタル化社会に対する対応というのが、例えば外国人に対しても、ワーケーションをやられる方に対しても、あるいは旅行者に対しても、市民に対しても非常に便利なデジタル化社会を整備していく姿勢というものが必要なのかなと感じる。

デジタル庁が先月誕生して、まず行政がデジタル化を進めるところで、この中でも行政が取り組むというようなことも謳われておりますが、これを民間会社あるいは地域住民に対してこのデジタル化をどのように進めるかという視点も、まちづくりの中に少しあってもいいのではないかな。

(会長)

基本計画の中でそのようなデジタル化について触れていただいているとことだが、いかがか。

(事務局)

D Xの推進ということで、こういった取り組みをしている企業に対する支援という形で、62ページ中段より下のところで、中小企業のD X化に対する取り組みを支援していきたいということで記載をしているが、それほど多くはない。

先程もありました観光分野など様々な分野で横断的に総合計画の中で謳っていききたいと思っているが、まだ全体を通しての記載が十分でないところがあるので、今後また庁内等々で検討していきたい。

(会長)

D Xについては様々な政策分野でその手法として非常に期待されている部分が大いと思う。D Xだけ取り出して書くというやり方もあるが、それぞれの政策分野でD Xを活用していくというメッセージとして伝わる工夫をしていただければと思う。D Xだけあっても問題解決しないというのも事実であり、それぞれの施策との関連の中でご検討いただければと思う。

また、脱炭素についても国の政策がこれからいろいろ出てくるだろうと思う。おそらくまだ氷見市として具体的にこれとこれというように候補建てにくいと思うが、基本的な考え方はしっかりと書いていただければと思う。

(委員)

第1部会の皆さんの意見を伺ったときにもありましたが、ICT技術を上手く使って、例えば21ページの地域医療に活用できないかというようなことがある。

比較的前半の計画なので、できるかどうかを重視されているのであまり絵にかいたようなものにならないよう配慮されたのだと思うが、10年の中の前半でできなくても、少し未来志向を入れていただくことが必要ではないか。

また、脱炭素に関しても消費者のありようについても、安全・安心というのは基本的なコンセプトであるが、守られるだけじゃなく、消費者自身も積極的に脱炭素に対してもSDGsの精神を推進していかなければならないということ、はっきりと世の中で言われているので、未来志向を加えた形で次の第1部会では話していきたい。

エシカル消費や食ロスといったことも出ていないので、消費者自身のありようも書きながら持続可能な社会ということ、どこの施策に入れたらいいのかすぐには申し上げられないが、次の部会でそのあたりも詰めていきたい。

(会長)

我々自身がゼロカーボンであるとかSDGsの目標達成に向けての役割は非常に大きいということは協調されるべきだと思う。消費者である私たちの意識の高まりが企業や政府に対する働きかけということになって、SDGsあるいはESGの動きが進んでいくのかなと思うので、エシカル消費などのキーワードを盛り込める部分があればお願いしたい。

氷見市にとって漁業でもこういう消費を通じたトレイサビリティなど非常に大事だと思う。是非ご検討いただければと思う。

(委員)

農業分野のところを読ませていただいたが、農業は国政の大きなウエイトを占める。氷見の米や野菜を消費者の皆さんにもっと食べていただき応援していただくということが今の氷見の農業にとっても国内の農業にとっても非常に大切だと思う。

市と農協を中心に地産地消、我々は地消地産といっているが、これはソフト面ですからお金がかからない。消費者の皆さん氷見市民の皆さんに直売所が全スーパーにある。トレサビリティも全部とってある。減農薬の取り組みもしている。是非、行政と農業者が今後地元の農産物試食、魚ももちろんですが、氷見市民に理解をいただいて、安定した基礎を固めるということが願いである。

(会長)

第一次産業全てにおいてトレイサビリティを確立させれば、国内の第一次産業を安定させることにもつながると思う。氷見市においては今ほどお話しにあった取り組みを既にされているわけですから、それをさらに伸ばしていくということで期待したい。

(委員)

52ページの農業の振興ということで書かれているが、この後の54ページのKPIに関して、もう少ししっかりとフォローするという意味で、例えば米の需要がだんだん減っており、高収益の作物の生産拡大等が言われておりまして、53ページにある園芸栽培の支援とあるが54ページのKPIに園芸作物の生産拡大に向けた指数を追加すべきではないかと思う。白ねぎは入っているが、氷見市はそれ以外にもいろいろあるので、是非それらを入れるべきだと思う。

また、新規就農者も課題ですから、就農者数なども達成目標にいれてはどうか。それと、55ページの林業の振興ですが、訂正していただきたいところがある。丸の4つめ、「地質材」というところを「低質材」に直していただければと思う。

また、主要施策の2つ目の「ひみ里山杉などの活用促進」とあるが、生産の拡大はあるが、活用の促進という意味で記述がないので、もう少ししっかり記載してほしい。たとえば住宅も、民間の建築物についても氷見産材を使っていこうということを記載して、達成目標にも入れてはどうかと思う。地産地消、省エネ、脱炭素などあるように氷見市は非常に意欲が感じられるが、木材の地産地消も是非入れていただければと思う。

(会長)

KPIについてご意見いただいた。必要な目標指数などあれば是非入れていただきたいと思うが、何でもかんでも取り入れてしまうと何が何だか分からなくなってしまうので、そこは是非必要なものを見極めていただきたい。

それから、林業の内容をもう少し何か書けるようなものがあるのかなと思う。

今ほど、まちづくり、農業、産業に関することでいろいろご意見いただいたが、教育や子育て等の分野ではいかがか。

(委員)

市街地の形成、都市の形が作られていくのは一般的には駅を中心に発展していく。氷見駅のロータリーのことが書いてあるが、現在は非常に寂しい、残念である。

なんとかして氷見の駅を中心として多くの人が訪れるような市街地の形成を考えて欲しい。

北陸新幹線が開通して高岡駅で降りて、氷見に行きたいとき、高岡の駅で案内をしてもらう、氷見線あるいはバスがあるということでPRしてもらおう。

都市計画道路をもっと活用して、高岡と氷見の駅前をつなぐようなバス路線を考えていただきたい。

また、氷見城端線のL R T化なども検討されているので、氷見の活性化を考えていただければと思う。

(会長)

新幹線開通に伴う2次交通は、氷見市だけではなく各市町村にとっても大きな課題。

また、公共交通の問題も非常に大事で、氷見線城端線のL R T化なども検討しているという現状と課題で記載されている。公共交通というのは広域的な部分もあるから、行政の広域連携の話にも繋がっていくので、ちょっと高い所から見て論点整理をして、個別に落とし込んでいただくという意見だと思う。

(委員)

ここ最近国や県で政策施策が動き出しました、いわゆる農福連携ということであるが、農業にとって、担い手不足は非常に深刻な問題となっている。

一方で、障害者からはなかなか社会参加の機会がない、収入アップに結び付かないといったことを聞く。農業者と障害者がお互いウィンウィンの関係を築けるのではないかということである。農業部門に最近では生活困窮者や引きこもりといった方々も農業分野に参加できるのではないかということも氷見市でも課題になってくるのではないかと思う。

県のHPを見ると、氷見市でも障害福祉事業所が農業者と連携して、しいたけ栽培や稲積梅の加工品など連携してやっているという事例紹介もあるので、氷見市でもどんどん取り組んで、施策を取り入れていただけたらと思う。どのカテゴリーに位置付けたらいいのか分からないが、そういったことも考えていただければと思う。

(会長)

今ほどのお話いただいたことは非常に大事なことで、どのカテゴリーに位置付けたらいいのかというと、やはり複数のカテゴリーにまたがると思う。先程のDXもそうですが、今後そういうものは増えてくると思われる。

SDGsで誰一人取り残さないという基本的な理念ですが、取り残されそうな人を取り残されないようにするのがいいということももちろんそうですが、そうすることで我々自身がより豊かな生活を送ることができるというのが非常に大事なことであるので、そういう意識で我々自身も進んでいかなければならないのかなと思った。

好事例等ありましたらご紹介いただき、具体的な施策に取り入れていければと思う。

(委員)

第9次総合計画ということで、氷見市の基本的な計画であるから、その柱は何なのかとい

うこと、全ての課題に対応する施策がたくさん出てくるわけであるが、この10年間の氷見市の最大の問題は、人口減少と高齢化にどう対応するかだと思う。そういった問題は幅広い施策の中に入っていると思うが、もっと骨にあたる部分として基本的な課題をより明確にした方がいいのではないかと思う。

地域医療体制の中で、第5波も収束に向かいつつあるが、パンデミックへの対応ということも一つ項目として記載しておくのもいいのではないか。

DXについてもこれからどう対応していくかが地域の盛衰を決めていくのではないかと思う。氷見がDX時代のフロントランナーになるように頑張っていってほしいと思う。

また、中小企業の経営基盤の人材育成のところ、DXに対応した人材育成を考えていただきたい。特に言われているのがリスキリングということで、AIやDXの基礎知識を持った人材を育成していくということを考えていただきたい。

IOT導入の際に、企業側にもDXを分かっている人がいないと、本当の意味でIOT導入の推進ができない。そういう人材を育成していくということが中小企業の活性化に欠かせないことだと思うので、是非その点も入れた政策を盛り込んでいただければと思う。

(会長)

パンデミックもありますし、様々な意味でも氷見市の強靱化ということにも繋がってくることかと思うので、できれば考えていければと思う。DXの話は本当にそのとおりで、とりわけ小規模企業や中小企業で、どのような形でDXに関わっていくのかが今後求められてくる。

それは氷見市だけではなく、経済団体と連携しながら進めていかなければならないし、行政自身のDX化も促進していかなければならない。

人材の話も、単なる経営者層の人達にはリテラシーを勉強して意識を持ってもらうということと、それを実際に使える人材の育成が必要になってくる。

比較的若い経営者の方々は、リテラシーもスキルも非常に高く、同じ小規模企業でもまだまだ伸びしろがある。どうやってうまく共有化が出来るのか考えていければいいと思った。

(委員)

前回発言させていただいたところを取り込んでいただき感謝申し上げます。

68ページ、ご時世に伴いウイズコロナにおける観光の促進ということで、「安全・安心に旅行できる環境整備を促進する必要がある」と書かれている。70ページの冒頭に「安全・安心で魅力ある観光地を目指して」という記載にさせていただきたい。

また、コロナ禍前までは市長を先頭にトップセールスをしていただいたが、できれば主要施策の中に、観光プロモーションの展開の後に、「トップセールスの実施、メディアの活用、テレビ、映画、動画、SNSなどを使った様々な発信」というような具体的な内容を示していただけると協会としては非常に動きやすいので検討いただきたいと思う。

60ページ、企業誘致活動の強化とあるが、これも漠然とではなく優遇税制のような具体的な内容の記載をしていただきたい。また、半島振興法による固定資産税の不均一課税というのが以前あったと思うが、現在はどうか。

(事務局)

半島振興地域に氷見市はなっているの、優遇税制については継続されている。

(委員)

そういったことを市民にも知ってもらえるようにして、全員が企業誘致のセールスがでるような状況にしておいてもいいのではないかと。企業側にフォローできるように具体的に内容など記載いただければと思う。

(会長)

具体的な内容についてお話しがあったので、事務局の方で、またそれらに対するご回答をお願いします。

企業誘致に関しては、どういった形で企業を絞るのかといったこと、人口流出が大きいのであれば、若い層に絞った企業を誘致することを考えるのかなど、そのあたり是非、書いていただきたい。

(委員)

氷見温泉郷の記載が一切どこにもないが、観光の大きな武器になるので、是非、氷見温泉郷の魅力の発信という記載を、どこか友好的な場所に入れていただけたら、協会の活動にも入れやすくなるので、よろしくをお願いします。

(委員)

デジタル社会、脱炭素社会ということで、国として県として市として取り組まなければならない問題であるが、住みたいまち、働きたいまち、育てたいまち、持続可能なまちを市民とともに作っていくことが大事である。市民とともに作るということは、市民がこれを理解できるような内容にすることが大事になってくる。また、その伝達方法が大事である。

これらの内容は、現在の大人だけでなく、将来の氷見市を担う子ども達には是非読んでいただきたい。

子ども達にしっかりと実状を実感して納得してもらうことで、生き方につながってくると思う。将来、介護の仕事に着こうというふうに、生き方に関わってくることだと思うので、非常に重要なことである。

例えば4ページにある現状と課題で、3つ目の丸と4つ目の丸の間が空いているのは、どういう意味があるのか。現状が上の丸で、課題が下の丸ということか。

(事務局)

説明に入る前にお伝えすべきであったが、上の3つの丸は主要施策の(1)に対応しており、下の2つの丸は主要施策の(2)に対応している。

(会長)

よく分かりました。

32ページの狭隘は「きょうあい」とフリガナを振っていただきたい。小学5年生くらいにも読めるようにしていただきたい。

(会長)

是非、そのあたりもまとめて事務局にお渡しいただいて検討させていただければと思う。表記のところ、分かりやすさ、伝え方についてはしっかりと検討しなければならないところだと思うので、よろしく願います。

(3) 第9次氷見市総合計画策定の今後のスケジュール(案)について

(会長)

それでは、議題3「第9次氷見市総合計画策定の今後のスケジュール(案)について」、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

(「資料3 第9次氷見市総合計画策定の今後のスケジュール(案)について」を説明)

(会長)

その他にご意見等ございませんか。

それでは以上を持ちまして、本日予定しておりました議事はすべて終了いたしました。

委員の皆様には長時間に渡り議事の進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。

進行を事務局にお返しする。

(事務局)

会長ありがとうございました。それでは、各部会の日程については、各部会長さんと相談しながら改めて委員の皆様にご案内ご連絡させていただきたいと思うので、よろしく願います。

閉会にあたり、市長より皆様にご挨拶する。

(林市長)

本日は長時間に渡り、委員の皆様方には様々な貴重なご意見をいただいた。今後の基本計画の策定に役立てて参りたいと思う。

また別途この総合計画と併せまして、教育振興計画や地域福祉計画など、いろいろな計画も併せて並行して進めておりますので、そういったご意見もこの計画の中に盛り込むべきものは盛り込むなどし、それらを総合してブラッシュアップをしていきたいと思う。

氷見市の将来の総合計画がより良いものとなるよう事務局としても努めて参るので、委員の皆様におかれましてもご協力賜りますようよろしくお願いする。

本日はありがとうございました。

(事務局)

以上を持ちまして、第4回氷見市総合計画審議会を閉会する。皆様方、どうもありがとうございました。